

令和6年度小学校動物飼育推進校 実践事例

— 生命の尊さを実感させる継続的な動物飼育 —



令和6・7年度 小学校動物飼育推進校

- 渋谷区立幡代小学校
- 中野区立上鷺宮小学校
- 八王子市立宇津木台小学校
- 青梅市立第七小学校
- 小平市立小平第九小学校

○ 令和6年度の実践事例

- ・ 衛生管理に係る実践事例
- ・ 体験活動に係る実践事例
- ・ 研修会に係る実践事例
- ・ 埋葬に係る実践事例

過去の実践事例及び最新の実践事例等については、東京都教育委員会のホームページに掲載しています。

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/animal.html>



推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



実践事例

渋谷区立幡代小学校

【実践の概要】

飼育委員会を中心とした児童が、学校担当獣医師から、うさぎは室内で飼った方がよいことや固形飼料より自然の草の方がよいことなど飼育動物の住環境の整備、日常の世話に関するお話を伺いました。



獣医師からの御指導を受ける児童

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師に来校いただき、保護者や地域の方々に直接、動物飼育の意義や目的について、御指導をいただきました。



獣医師の話聞くボランティアの皆様

保護者の皆様や地域の方々を中心に組織され、ウサギ飼育に関わる様々なサポートをしてくださっている「うさぎボランティア」の皆様にも参加いただき、一緒にお話をお聞きしました。

【児童の反応】

- 普段私たちがやっているお世話も、一つ一つ意味があったり、もっと注意しなければいけないことがあったりすることが分かった。
- ウサギの毛づくろいや爪切りなどが、ウサギが健康に生きていくためにとても大事だということを知りました。



実践事例

中野区立上鷲宮小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師から、モルモットの病気や体調の不良を表す症状、伸びすぎた爪の管理、などの健康面や、えさとして与えてよいもの、適した室温、小屋に必要なものなどの環境面について御指導をしていただきました。
- 月に1回程度、学校担当獣医師による健康診断を実施し、モルモットの健康管理や小屋の環境について御助言をいただきました。



学校担当獣医師による授業の様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師から、月ごとに健康診断をしていただきました。また、低学年と飼育委員会へ、飼育上の注意点やモルモットの特性について御指導いただきました。
- 夏季休業中と冬季休業中の「モルモットホームステイ」として、保護者に家庭での飼育を募集しました。希望者には飼育の手引きを配布し、動物病院の連絡先などを掲載し、緊急時にも対応していただけるようにしました。

【児童の反応】

- 飼育する動物の健康状態や、住環境を意識しながら飼育に取り組むようになりました。毎日の健康観察や、食事、糞の量、体重の計測など健康状態をこまめに確認するようになり、モルモットの体調の異変にもすぐに気が付くようになりました。
- 「モルモットが住み心地の良い場所にしよう。」という目標を掲げ、飼育小屋や教室で観察する他、ケージの清掃にも意欲的に取り組むようになりました。



実践事例

八王子市立宇津木台小学校

【実践の概要】

- 第5学年及び第6学年の飼育委員会の児童がウサギ小屋の清掃、水換え、えさやりをしました。
- 学校担当獣医師に見ていただき、世話の仕方と健康状態の確認の仕方、抱っこや爪切りの仕方について御指導・御助言をいただきました。



ウサギの特徴などを聞いているところ

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会活動時、学校担当獣医師をお迎えして、実際に飼育小屋の環境やウサギの健康状態等を確認いただいた後、御指導・御助言をいただきました。
- ウサギを刺激しない上手な抱っこの仕方や爪を切る方法を教えていただきました。
- ウサギ小屋の環境衛生について、糞の始末や掃除の仕方などを教えていただきました。



実際にウサギを抱っこして健康状態を確認

【児童の反応】

- ウサギの生態を知ることによってウサギに興味をもち、ウサギが快適に過ごせるように、糞の始末や小屋の掃除を今までよりも丁寧に行うなど、飼育活動に関する意欲が高まってきました。
- ウサギを抱っこして、体の様子をよく観察することで、愛着をもって接しようとする児童が増えました。



実践事例

青梅市立第七小学校

【実践の概要】

7月…前期の飼育・栽培委員会児童対象に指導

12月…後期の飼育・栽培委員会児童対象に指導

指導項目

- ・ウサギの世話の仕方（抱き方、えさの種類と量、清掃）
- ・ウサギの爪切りの方法とその必要性
- ・ウサギの体重測定の方法と、実測、継続的な測定の必要性
- ・ウサギの飼育日誌の書き方の確認と、ウサギの個体カードの作成の仕方



12月の委員会活動の時間に、学校担当獣医師の御指導の下、ウサギの体重を測っている様子と、体重を記録に取ろうとしている児童の様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

普段は、第4学年から第6学年までの飼育・栽培委員会の児童（前期・後期制・各5名）を中心に、ウサギの日常的なえさやりや清掃活動等を行いました。

最初の学校担当獣医師との打合せの時に、学校担当獣医師より、学校の実態から委員会児童を対象とした授業を行いたいとの提案を受け、年2回、実施する計画を立てました。

学校担当獣医師からは、授業実施前に、ウサギ用の爪切り、爪を切っているときにウサギの精神的なストレスを軽減するための大きめのバスタオルを3枚程度、体重測定用の秤、測定の際にウサギを入れる小さめのケース（本校では段ボール箱）などを用意するように依頼され、購入しました。

【児童の反応】

- ・ウサギの体重が分かった。ウサギによって体重が違うことが分かった。
- ・ウサギの爪が長く伸びていて、人間と同じように、爪を切ることが大事だと分かった。
- ・ウサギの爪を切るときに、血が出ないように切るのが難しかったけれど、頑張って切れた。
- ・バスタオルでウサギをくるむと、ウサギが落ち着いたので、安心して爪を切ることができた。
- ・昇降口の前にケージを置いて、ウサギとの触れ合い体験期間を設定したときに、ケージの上にウサギの個体カードを置いたこともあり、たくさんの児童がケージの前で、ウサギの名前を呼んでかかわったり、それぞれの違いに気付いたりすることができた。



実践事例

小平市立小平第九小学校

【実践の概要】

- 第5学年及び第6学年の飼育委員会児童がウサギのケージの掃除、水替え、えさやりを行いました。
- 学校担当獣医師による健康観察を行いました。爪切り、電話による健康相談にも対応していただきました。
- 第1学年及び第2学年の児童は、学校担当獣医師から、ウサギの飼育方法について教わりました。
- 教員向けの研修を行い、学校担当獣医師から、ウサギの飼育方法について教わりました。



第2学年 飼育ケージの清掃

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会の児童に向けて、学校担当獣医師をお迎えし、飼育環境についてプレゼンテーションを交えてお話をいただきました。
 - ① 2羽のウサギは一緒に放すと喧嘩してしまうので、分けて飼育する。
 - ② 抱っこするときは座りながら優しく抱き上げる。
 - ③ えさに牧草（チモシー）をあげることで、歯に良い影響がある。
 - ④ 暑さや寒さが負担になるため、室内飼いを推奨する。上記についてお話をいただいたので、次年度以降の飼育活動にも活かしていきます。

【児童の反応】

- 児童はウサギの生態について学習したことを活かし、毎日の健康観察や動物の異変を、意欲的に観察していました。
- 委員会の担当ごとにお互いに気付いたことを教え合う様子や、助け合う場面も何度も見られました。責任感をもって取り組んでいました。

推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。



実践事例

渋谷区立幡代小学校

【実践の概要】

第1学年が生活科で学校担当獣医師からウサギのことや飼育の仕方を教わり、順番で10回ほどお世話をしました。

お世話をしながら、気が付いたことをまとめて、学校公開の日に発表しました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

生活科の授業で、ウサギをお世話したことや気が付いたことを、友達、保護者の皆さんや学校担当獣医師に発表し、学校担当獣医師から「よく気が付いたね」とたくさん誉めていただきました。

保護者に対しても、学校担当獣医師から動物飼育の意義についてお話いただきました。

【児童の反応】

○9がつ10にち

うさぎはおおごえがにがて、かたいものをたべる、きれいなばしょがすき、いきなりだっこされるのがにがて

○1がつ16にち

ひげがたくさんはえている、おしりのほうはまっ白、からだのほうはくろとグレー、耳の中はうすだいだいろ



ウサギと触れ合う第1学年の児童





実践事例

中野区立上鷺宮小学校

【実践の概要】

- 第2学年を対象に、全クラスでモルモットの飼育に取り組みました。クラスで名を考え、ポスターを作ったり、第1学年の児童に紹介したりする活動に取り組みました。
- 飼育委員会が中心となり、モルモットとの触れ合い体験を全学年対象で実施しました。写真撮影やえさやり体験なども同様に実施しました。



第2学年の児童の飼育の様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 子供たちがモルモットについて知りたいことを挙げ、学校担当獣医師に伝え、授業で御指導いただきました。
- 第2学年の児童は、モルモットと触れ合う際に、どのように抱っこをすればよいか、なでるときやえさをあげるときの注意点など、学校担当獣医師からアドバイスを受けました。モルモットの飼育の引き継ぎでは、学校担当獣医師から学んだことを、第2学年の児童が第1学年の児童に伝えることができました。

【児童の反応】

- モルモットを飼育し始めてから、他の動物や植物など「いのち」について考え、大切にしている児童が増えました。
- 飼育を通して、友達と協力して作業に取り組めるようになりました。また、どうすれば効率よく作業を進められるかを考える計画性が身に付いてきました。



実践事例

八王子市立宇津木台小学校

【実践の概要】

- 第1学年において、9月にウサギの「動物ふれあい体験」を行いました。
- 第2学年において、9月にウサギと犬との「動物ふれあい体験」を行い、11月の学習発表会では、動物について発表しました。



第1学年 ウサギとの触れ合いタイムの様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師からは、クイズ形式で、ウサギの耳、目、鼻、口、歯の特徴を教えてくださいました。
- 学習発表会では、第2学年の児童がウサギについて学んだことをまとめ、第1学年から第6学年までの児童、第2学年の保護者の前で発表しました。



第2学年 学校担当獣医師からウサギについての話を聞く

【児童の反応】

- 生き物に触れ合う体験の少ない児童が多いため、実際に生きている動物と触れ合うことで、温かさや柔らかさを体験し、喜びを感じることができました。
- 命を大切にしようという気持ちが高まり、飼育小屋にいるウサギが元気かどうかを今までよりも頻繁に観察に行ったり、気にするようになったりする場面が見られました。



実践事例

青梅市立第七小学校

【実践の概要】

第1学年…ウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

第2学年…ウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

国語「どうぶつ園のじゅうい」の学習内容と関連させた話

第3学年・第4学年…ウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

ウサギと犬に触れ合いながら、様々な動物の「命」を感じる触れ合い授業

理科「私たちのからだと運動」の学習内容と関連させた話及び触れ合い体験

第5学年…ウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

理科「命のつながり」・「体のつくりと働き（6年）」の学習内容と関連させた話

第6学年…理科「かけがえのない地球環境（SDGsに関すること）」の学習内容と関連させた話

獣医師という仕事を通して、夢や仕事など自己のキャリアについて考える話



第3学年・第4学年の触れ合い授業の様子
上の写真はウサギの心音を聴く様子
下の写真は、犬と触れ合う様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ・最初の学校担当獣医師との打合せの時に、小規模校（全校で47名の児童）ということもあり、全ての学年の児童とかかわる授業ができるかどうかの打診をいただき、当初の計画を修正し、全学年で実施しました。
- ・授業計画を立てる際に、「ウサギの体のしくみ（歯、耳、目、尻尾、寿命）」や「ウサギの生活（食べ物など）」について、学校担当獣医師からお話いただいた後に、ウサギの心音と人間の心音を比べる、命の授業（触れ合い体験）を行うことをベースにした授業とすることを確認しました。さらに、各学年に応じた他教科等との学習内容と関連させ、ウサギとの触れ合い体験を「活かす授業」となるように工夫しました。

【児童の反応】

- ・ウサギの心臓の音は、自分の心臓の音よりもすごく速いことが分かった。
- ・学校のウサギも、元気な時の様子を見ておくと、病気になった時に気が付けることが分かった。
- ・ウサギの血管がはっきり見えて、ウサギも人間と同じように血液が流れているのだと思った。



実践事例

小平市立小平第九小学校

【実践の概要】

- 第1学年及び第2学年で触れ合い教室を行いました。
- 第2学年の児童が飼育環境についての調べ学習を行い、学校担当獣医師及び第1学年の児童への発表し、飼育体験につなげました。



触れ合い体験
学校担当獣医師への質問をしている

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 第2学年は学校担当獣医師の御指導の下、触れ合い体験、飼育方法・飼育環境についての調べ学習、第1学年への発表を経て、実際に学級でウサギを招待して飼育体験をする取組を行いました。
- 第1学年は、ウサギの生態について学校担当獣医師の講話及び第2学年の発表を聞いたことや、触れ合い体験を経験したことで、次年度への見通しをもつことができました。
- 特別支援学級「ポプラ学級」では、各学級で飼育しているウズラ、モルモット、ウサギ、カメ、熱帯魚の様子を通常学級の第1学年に発表する「九小動物園」開催しました。

【児童の反応】

- 各活動において、児童は動物を身近に感じ、大切にしたいという気持ちが芽生えていました。また、その気持ちを飼育環境の改善やお世話の際の正しい接し方で表せることに気が付くことができました。

推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。

★★

実践事例

渋谷区立幡代小学校

【実践の概要】

校内の全教職員を対象に学校担当獣医師を招いて研修会を開催しました。学校担当獣医師より、学校での動物飼育について講義をしていただきました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

担当獣医師による講義の内容は、学校動物飼育の根拠に関する話や様々な実践事例、意義、そして東京都獣医師会による支援体制等についてです。

教員に分かりやすいように学習指導要領の該当部分を示しながら、丁寧に御説明をしていただきました。

【教員の反応】

- 学校で飼育している動物に児童が愛着をもち、そしてその死を体験することが、児童にとってとても大きな学びとなることを教えていただいた。
- 学校の動物飼育について、改めて考える機会となった。児童が命の大切さを学んでいけるよう、学校担当獣医師と連携した授業等を計画的に実施していきたい。

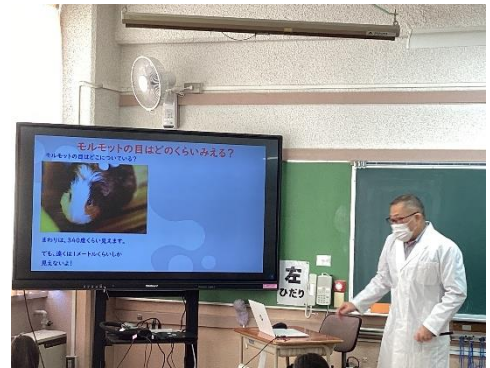


実践事例

中野区立上鷺宮小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師が、全職員対象にモルモットの飼育についての研修会を実施しました。
- モルモットのかかる病気や食べ物などについて、御指導をしていただきました。
- モルモットの飼育方法について、爪切りの実技研修をしていただきました。



学校担当獣医師による説明

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 夏季休業日前に実施した研修では、飼育担当教員や第2学年の児童からの質問を伝え、御助言いただきました。
- 御助言いただいたことで、飼育委員会担当や、担当学年の担任は飼育状況が適切かどうかを確認することができました。

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から御指導を受け、モルモットの生態について詳しく知ることができました。
- 講義だけでなく、抱っこ仕方や爪の切り方などの実技的な内容についても御指導いただき、モルモットの飼育について児童からの質問にも答えられる教員が増えました。



実践事例

八王子市立宇津木台小学校

【実践の概要】

- 研修会では、学校担当獣医師をお呼びして、ウサギの飼育方法についてのお話を伺いました。
- 飼育環境について教えていただくことで、ウサギの環境に適した飼育方法を選択することができました。



飼育環境について御指導を受けている様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 暑いときや寒いときにウサギが快適に過ごすにはどんなことに気を付けたらよいか、学校担当獣医師に御助言いただきました。



夏や冬はゲージに入れて室内で飼育している

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から御指導を受け、ウサギの生態や飼育方法等の基本的な知識を得ることができました。
- ウサギの生態を知ることで、飼育するときにはどんなことに気を付ければよいか、具体的に知ることができました。



実践事例

青梅市立第七小学校

【実践の概要】

7月に教職員・保護者・地域対象の研修会を実施

研修会の内容

- ・ウサギの世話の仕方（抱き方、えさの種類と量）
- ・ウサギ小屋内の衛生環境について
- ・猛暑期間や厳冬期間のウサギの飼育体制等について
- ・地域、保護者との連携について



7月の研修会にて、上の写真は、学校担当獣医師より、本校教職員がウサギの世話の仕方を学ぶ様子
下の写真は、学校担当獣医師、東京都教育委員会事務局、本校教職員でウサギ小屋の様子
の視察

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

最初の学校担当獣医師との打合せの時に、学校担当獣医師及び地域の獣医師に、本校のウサギの飼育小屋の現状などを見ていただき、主に以下の三つの課題を指摘いただきました。

- 1 ウサギ小屋内の衛生環境と安全性について
- 2 猛暑期間や厳冬期間のウサギの飼育体制について
- 3 ウサギと児童との関わり方について

上記三つの課題について、学校担当獣医師、視察に来られた東京都教育委員会の担当指導主事及び青梅市教育委員会の指導主事と相談をしながら、予算との兼ね合いも考慮しつつ、できることを模索した1年間となりました。

その中では、特に「2 猛暑機関や厳冬期間のウサギの飼育体制」について、夏季休業中及び冬季休業中に、のべ7家庭によるウサギのホームステイを実施することで解決できました。

【教員の反応】

- ・ウサギのホームステイの実施は、保護者にも喜ばれ、よい試みだった。ただし、小屋からゲージにウサギを入れるのに大変な手間がかかること、ホームステイ中にウサギの体調が悪くなった時に、動物病院に連れて行くなどの金銭的な担保をどうするかが課題だと感じる。
- ・衛生面や安全面を考え、ウサギ小屋内を、現状の土の状態から、コンクリートに移行することについては、排水の問題や予算面の問題もあり、現状では難しいのではないかと感じる。



実践事例

小平市立小平第九小学校

【実践の概要】

- 学校教育で動物を飼育する意義について改めて全体共有を図りたいこと、避けて通れない動物の死についての児童と教員の向き合い方の確認、その後の具体的な対応方法について知りたいという声から、教職員対象の全体研修を設定しました。
- 全体研修では、「動物の死について」をテーマとし、学校担当獣医師から、生命の尊さを感じさせること、学校で継続的に飼育を行うことの意味をお話しいただきました。
- 飼育に携わる学年の教員に向けた飼育方法の研修を実施しました。また、分からないことへの相談の時間を設けました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師の意向を踏まえ、全体研修に向けて事前に教員にアンケート調査を行い、研修テーマを決定しました。研修では学校担当獣医師への質疑も行いました。
- 長期休業中のホームステイのボランティアの方に、緊急時の対応マニュアルと飼育方法の冊子を渡しました。また、飼育に対する不安感を軽減するために簡単な研修を行いました。



亡くなったウズラとのお別れ会を行う。
死骸を箱に入れてお花できれいに飾る。

【教員の反応】

- 「指導の見通しをもてた。」、「継続して飼育することの意味に気付けた。」、「飼育動物が亡くなった際はセレモニーを行って児童や飼育に携わった人達の気持ちに区切りをつけることの意味や児童への指導的価値を学べた。」、「緊急時の動きが明確になり、安心した。」

推進校は、飼育動物が死亡した際に、児童に生命の尊さを伝える取組を実施しています。また、学校担当獣医師から、遺体の検案、埋葬場所の準備、埋葬の処理などについて支援を受けています。

★★

実践事例

八王子市立宇津木台小学校

【実践の概要】

- 12月に飼育しているウサギが亡くなりました。児童は、今まで愛着をもって飼育していたので、かなりショックを受けていましたが、かけがえのない命について考えるきっかけになりました。



飼育委員会の児童がお別れの会を行っているところ

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師から遺体の引き取りと埋葬の流れについて教えていただきました。
- 飼育委員会の児童が集まり、「お別れの会」を行った後は、地域の動物病院で引き取ってもらい、指定の場所に埋葬していただきました。

【児童の反応】

- なかなか出会うことのない経験をした子どもたちが、命について考えるためのきっかけになりました。
- とても悲しい出来事でしたが、子どもたちが愛着を抱いた飼育動物の死を体験することで、より動物の命を大切にしようという気持ちが芽生えました。
- 全校朝会でウサギの「死」を伝えたところ、多くの児童がお別れのメッセージを書きました。ウサギを大切に思う気持ちが表されていました。